

2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

2023年11月10日
北陸電気工業株式会社
(証券コード：6989)

- **1. 2023年度（2024年3月期）上期業績報告**

- **2. 2023年度（2024年3月期）通期業績予想**

- **3. 中期経営計画2024：Plan2024の進捗**

1. 2023年度（2024年3月期）上期業績報告

- ・業績概要
- ・製品別売上高
- ・市場別売上高
- ・営業利益の増減要因（対前年同期比）
- ・貸借対照表
- ・キャッシュ・フロー

- ▶ 売上高 208.6億円 前年同期比 ▲26.4億円
- ▶ 営業利益 11.0億円 前年同期比 ▲3.9億円
- ▶ 経常利益 18.7億円 前年同期比 ▲5.6億円 円安進行に伴い為替益 6.9億円を計上
- ▶ 親会社株主に帰属する四半期純利益 15.1億円 前年同期比 ▲2.9億円

(単位：億円)

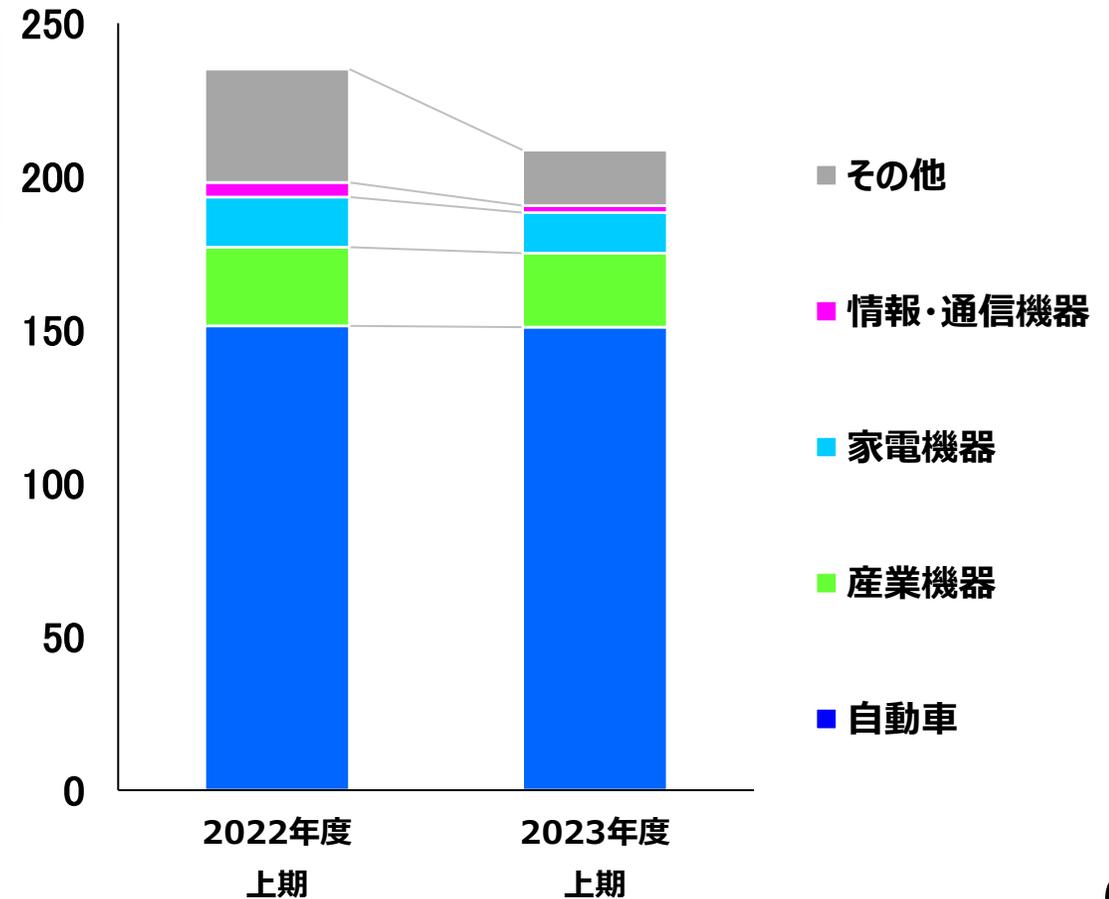
	2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	前年同期比	
			増減	%
売上高	235.0	208.6	▲26.4	▲11.2
営業利益	14.9	11.0	▲3.9	▲26.3
営業利益率	6.4%	5.3%	—	—
経常利益	24.2	18.7	▲5.6	▲23.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	18.0	15.1	▲2.9	▲16.1
為替レート(期末) 1US\$ = 円	144.81	149.58	—	—

市場別売上高

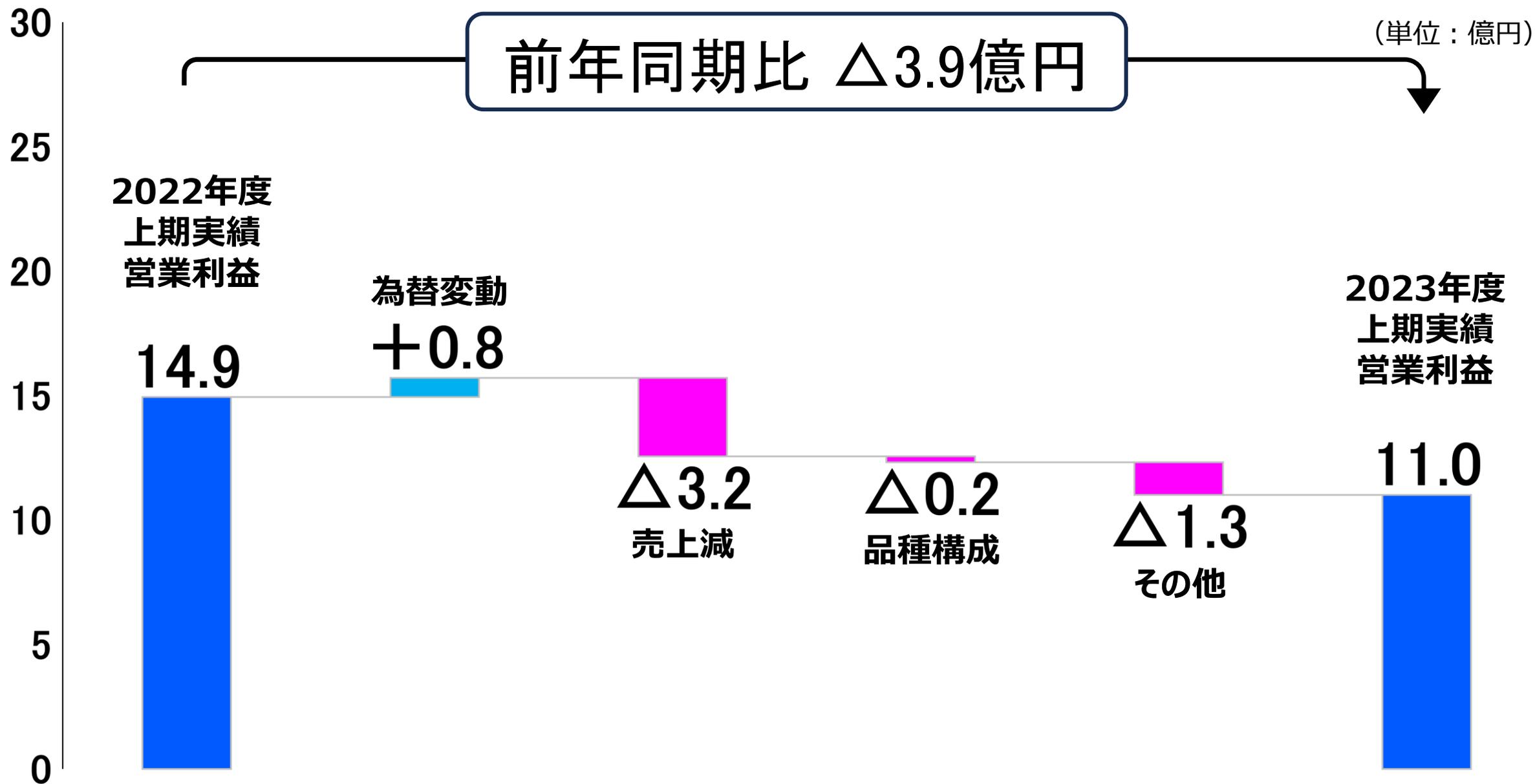
- ▶ **自動車 売上高 151.0億円 前年同期比 ▲0.4億円**
 半導体不足の緩和に伴い需要は堅調に推移したもののディスプレイパネル向け受注減により全体では横ばい
- ▶ **家電機器、情報・通信機器**
 需要落ち込みにより顧客における在庫調整が長期化

(単位：億円)

	2022年度 上期		2023年度 上期		前年同期比	
	実績	%	実績	%	増減	%
自動車	151.3	64.4	151.0	72.4	▲0.4	▲0.2
産業機器	25.7	10.9	24.0	11.5	▲1.7	▲6.5
家電機器	16.3	6.9	13.3	6.4	▲3.0	▲18.4
情報・通信機器	4.7	2.0	2.2	1.1	▲2.5	▲52.5
その他	37.0	15.7	18.1	8.7	▲18.9	▲51.1
合計	235.0	100.0	208.6	100.0	▲26.4	▲11.2



営業利益の増減要因（対前年同期比）



貸借対照表

- ▶ 総資産は、売上債権および棚卸資産が減少したものの現金および預金の増加を主因に236百万円の増加
- ▶ 負債は、仕入債務の減少や借入金純減などから1,705百万円の減少

(単位：百万円)

	2022年度通期 (3月末)	2023年度上期 (9月末)	増減
流動資産	30,132	30,336	+203
現金及び預金	8,052	11,057	+3,004
受取手形及び売掛金	10,064	8,672	△1,391
棚卸資産	10,021	9,325	△696
固定資産	12,847	12,880	+32
資産合計	42,979	43,216	+236
流動負債	15,803	15,418	△385
支払手形及び買掛金	7,737	6,193	△1,544
短期借入金	5,690	6,710	+1,019
固定負債	10,068	8,748	△1,320
負債合計	25,872	24,166	△1,705
純資産合計	17,107	19,049	+1,942
負債・純資産合計	42,979	43,216	+236

- ▶ 純資産は、
1,942百万円の増加

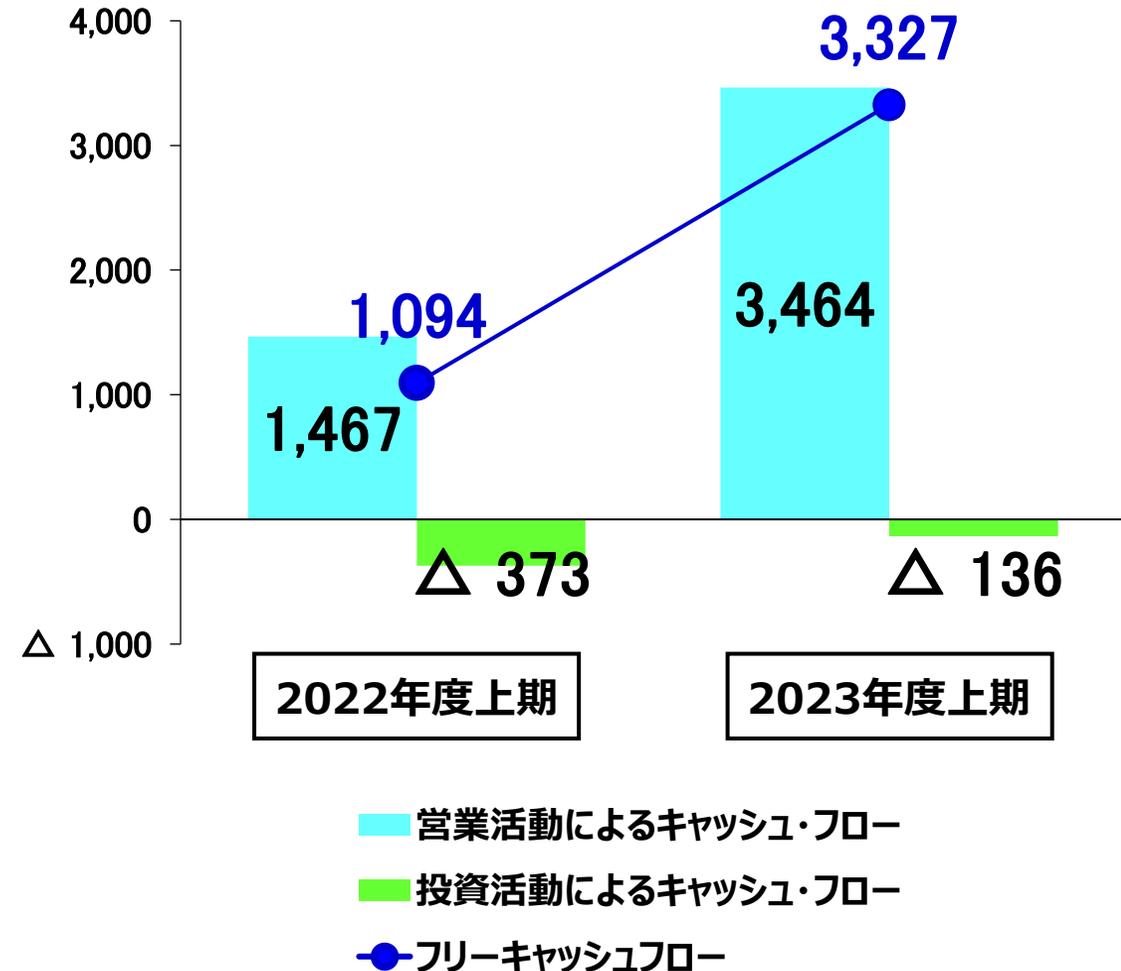
・親会社株主に帰属する 四半期純利益	+1,511
・剰余金の配当	△460
・子会社の新規連結	+130
・自己株式の取得等	△195
・アジア通貨高円安による 為替換算調整勘定	+956

キャッシュ・フロー

- ▶ 営業C F 売上債権および棚卸資産の減少等により増加
- ▶ 投資活動C F 主に固定資産の取得による支出
- ▶ 財務活動C F 主に配当金の支払いおよび自己株式の取得

(単位：百万円)

	2022年度 上期	2023年度 上期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	1,467	3,464	+1,996
投資活動による キャッシュ・フロー	△373	△136	+236
フリーキャッシュフロー	1,094	3,327	+2,233
財務活動による キャッシュ・フロー	302	△985	△1,287
現金及び現金同等物の 四半期末残高	7,343	9,066	+1,722



▶ 2. 2023年度（2024年3月期）通期業績予想

- ・事業環境
- ・業績予想
- ・営業利益の増減要因（対前年実績）
- ・設備投資・償却推移
- ・株主還元

■ 2023年度 エレクトロニクス市場 期初想定

- ・前半：スマートフォンやパソコンなどの民生機器の需要低迷、半導体設備投資の一服など、厳しい需要動向が続く
- ・後半：半導体不足の緩和による自動車生産の回復、x E V市場の成長加速、I T機器の需要回復などを見込む



■ 現時点の見通し

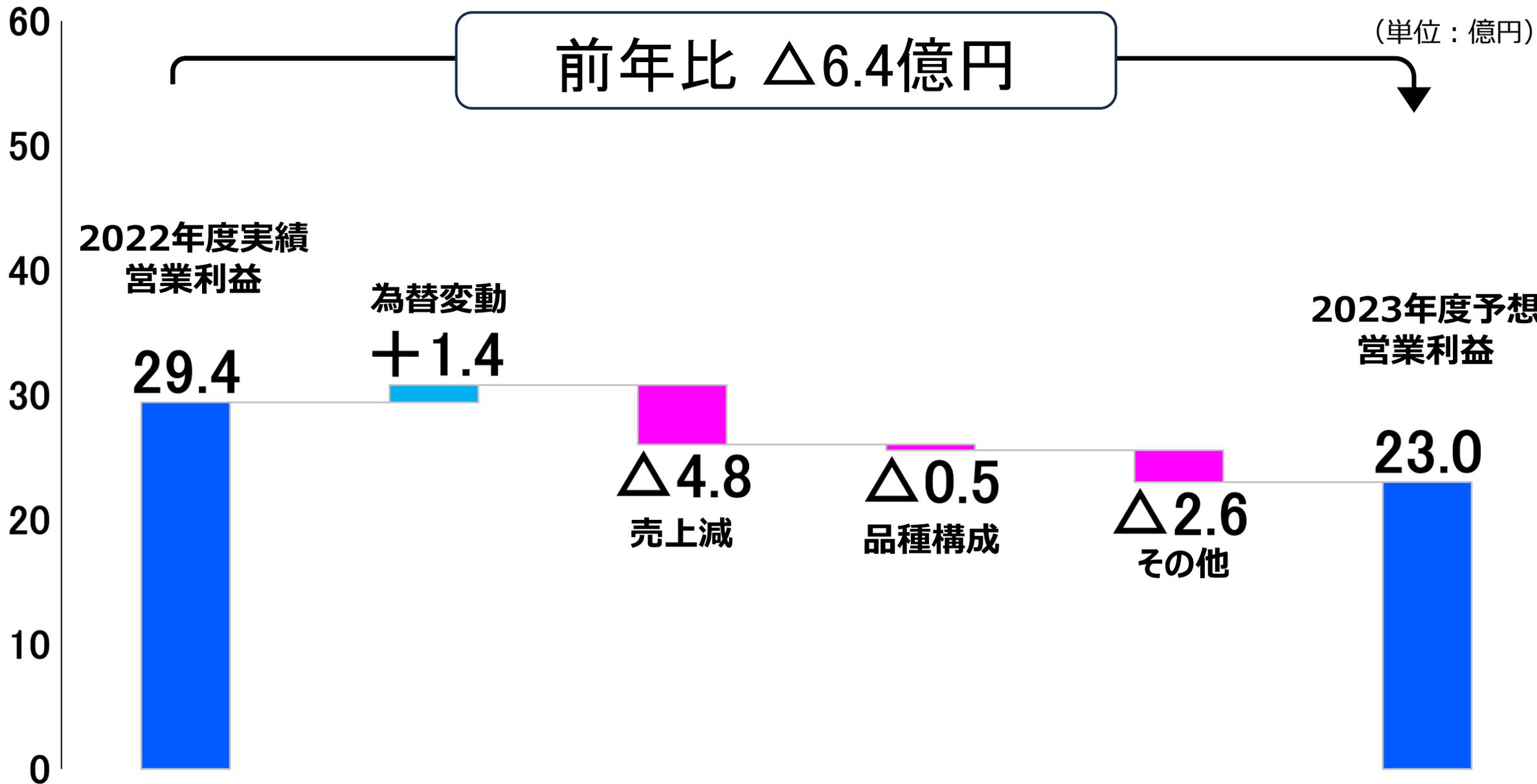
- ・前半：民生機器分野の需要低迷により調整局面が続いている
- ・後半：自動車生産の回復および顧客の在庫調整一巡など、需要回復が見込まれる
民生機器は中国経済低迷などを背景に期初想定よりも需要回復が遅れる見通し

- ▶ 民生機器分野における在庫調整の長期化に伴い、通期売上高は減収の見通し
- ▶ 期初公表値に対し、売上高は減収となるが営業利益は据え置き、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益はドル高円安の進行を背景に上方修正
- ▶ 想定為替レートを1ドル=130円から140円へ変更

(単位：億円)

	2022年度 通期実績	2023年度 通期予想(期初)	2023年度 通期予想(11月)	前年比	
				増減	%
売上高	454.6	436.0	426.0	▲28.6	▲6.3
営業利益	29.4	23.0	23.0	▲6.4	▲21.8
営業利益率	6.5%	5.3%	5.4%	—	—
経常利益	35.8	22.0	26.0	▲9.8	▲27.4
親会社株主に帰属する当期純利益	6.5	17.0	21.0	+14.5	+224.3
為替レート(期末) 1US\$ = 円	133.53	130.00	140.00	—	—

営業利益の増減要因（対前年実績）



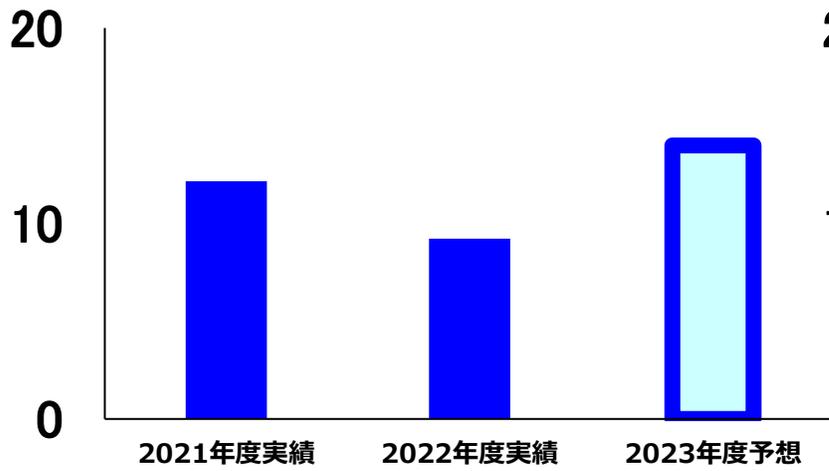
設備投資・償却推移

(単位：億円)

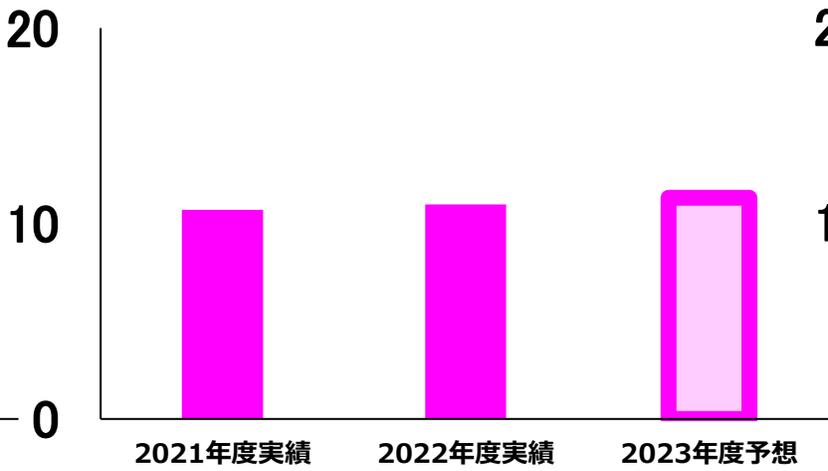
	2021年度 通期実績	2022年度 通期実績	2023年度		前年比	
			上期実績	通期予想	増減	%
設備投資額	12.2	9.2	3.8	14.0	+4.8	+51.8
減価償却費	10.7	11.0	5.0	11.3	+0.3	+3.1
研究開発費	16.2	14.3	7.6	14.6	+0.3	+1.9

(単位：億円)

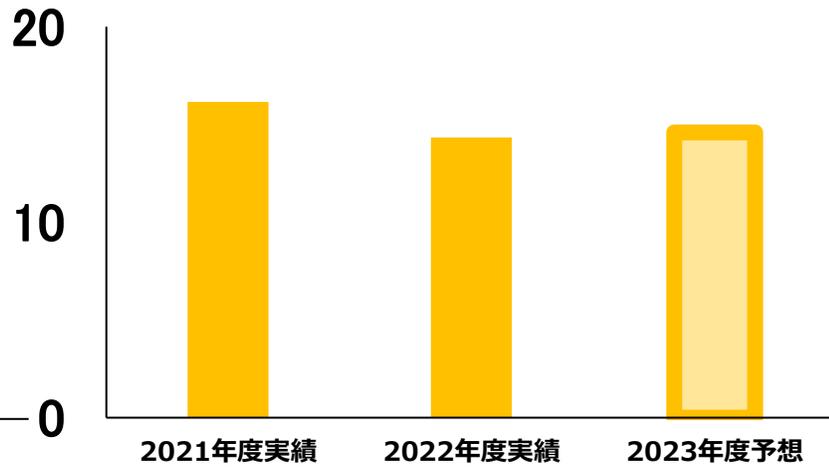
設備投資額



減価償却費

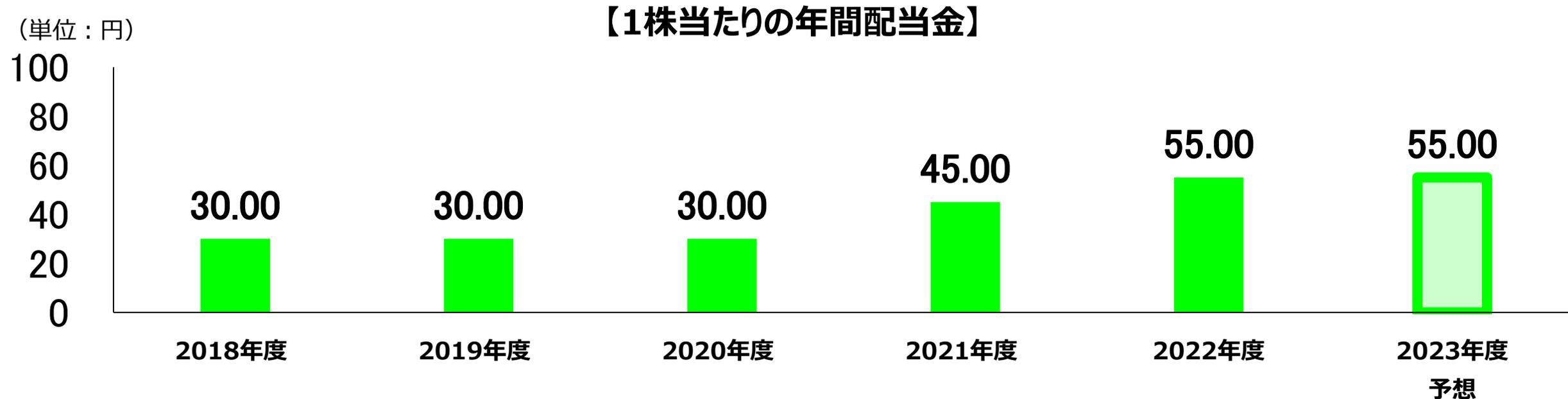


研究開発費



年間配当金は、期初予定通り前期と同額の1株当たり55円を予定

■基本方針 安定配当の継続と業績に裏付けられた成果の配分



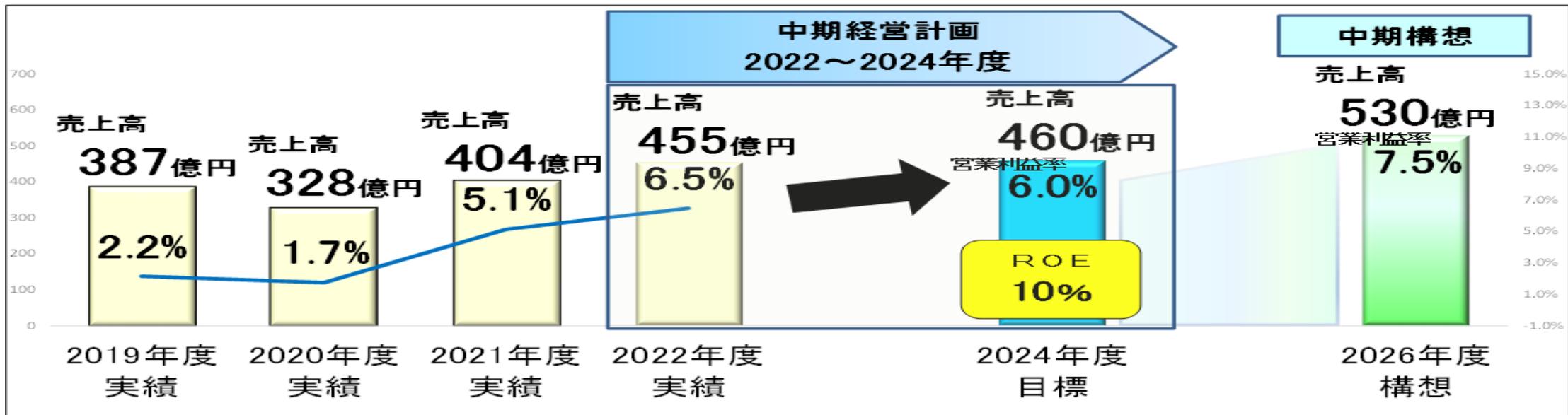
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 予想
1株当たりの年間配当金 (円)	30.00	30.00	30.00	45.00	55.00	55.00
1株当たりの当期純利益 (円)	92.70	79.24	53.47	232.89	77.36	253.28

3. 中期経営計画2024：Plan2024の進捗

- 中期経営計画2024：Plan2024経営目標
- 経営・事業戦略の取組み状況
- コア事業の強化
 - 2024年度 売上目標達成に向けた取組み
- マーケティング強化と事業化推進
 - 新製品 耐アーク性角板形チップヒューズ
 - HOKURIKUのIoT

中期経営計画2024：Plan 2024経営目標

	2022年度		2023年度	2024年度	2026年度
	期初計画	実績	予想	目標	構想
売上高	430億円	455億円	426億円	460億円	530億円
営業利益	23億円	29億円	23億円	28億円	40億円
営業利益率	5.3%	6.5%	5.4%	6.0%	7.5%
ROE	9.1%	3.9%	11.6%	10.0%	—
期中平均為替レート 1US\$ =円	118.00	135.58	140.00		



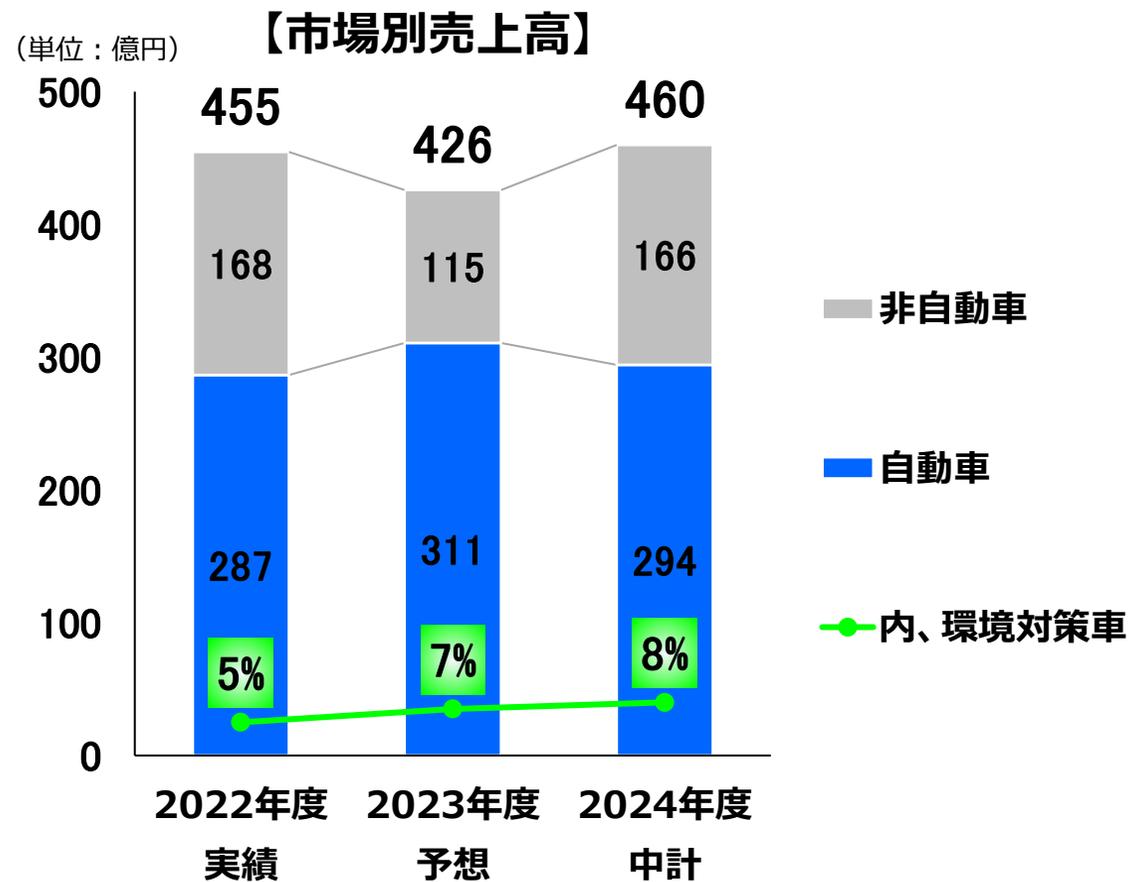
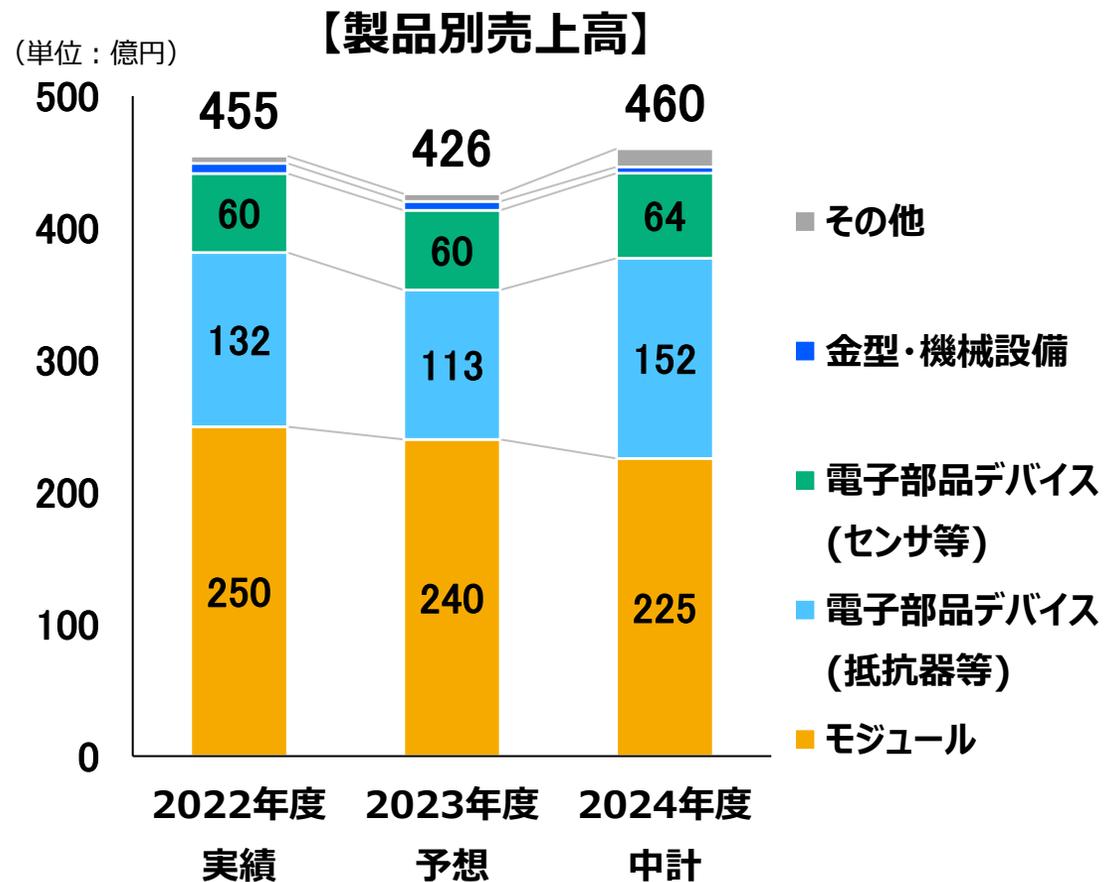
経営・事業戦略の取組み状況

▶ 中期経営計画 2024年度の目標達成に向けて「経営・事業戦略」を着実に実行していく

経営・事業戦略	取組状況
コア事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術(新製品)、新顧客、新分野への「3N」販売拡大活動を推進中 <ul style="list-style-type: none"> ➔ 「3N」売上見通し 22年度比：23年度 105%、24年度 200% ➔ グローバルで高シェアを持つ産業機器や医療機器メーカー等へのアプローチを強化中 ・アセアンの生産体制を強化 <ul style="list-style-type: none"> ➔ タイ工場拡張・生産ライン増設、マレーシア工場への移管拡大中 アセアン生産比率：2022年度 29%、2023年度上期 31% ➔ インドネシアへの展開準備中 圧電製品の技術供与による現地生産体制の確立
マーケティング強化と事業化推進	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略市場マーケティング部を新設し、活動強化 <ul style="list-style-type: none"> ➔ 新需要への製品開発に向けたマーケティング活動を推進中 ・脱炭素、EV化やDX関連の製品開発を推進中 <ul style="list-style-type: none"> ➔ 環境対策車向け「耐アーク性角板形チップヒューズ」のリリース ➔ IoTを活用した「HOKURIKUのIoT」のリリース
経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス体制、リスクマネジメント体制を強化 <ul style="list-style-type: none"> ➔ 女性取締役1名選任、独立社外取締役40% ・サステナビリティ委員会を新設、重要課題への取組み加速 <ul style="list-style-type: none"> ➔ マテリアリティの23・24年度、中長期目標の設定

コア事業の強化：2024年度 売上目標達成に向けた取り組み

- ▶ 売上目標達成に向け、「3N」販売拡大活動を継続、進行中
- ▶ 2023年度は主に非自動車分野の抵抗器等で売上減見通しになるものの、2024年度は在庫調整の進展を背景とした非自動車分野の需要が回復
- ▶ 自動車分野では、環境対策車向けの売上比率を拡大
2022年度 5% ➡ 2023年度 7% ➡ 2024年度 8%



■ 新製品情報： 耐アーク性角板形チップヒューズ 【型名】 AFCL16-132

- ▶ 環境対策車の電池監視用ユニット回路保護用途で需要が拡大
- ▶ 高定格電圧で強力なアーク抑制特性※を実現した速断タイプのチップヒューズ

※アークとは：2つの電極間で放電させること（アーク放電）によって形成されたプラズマの一種

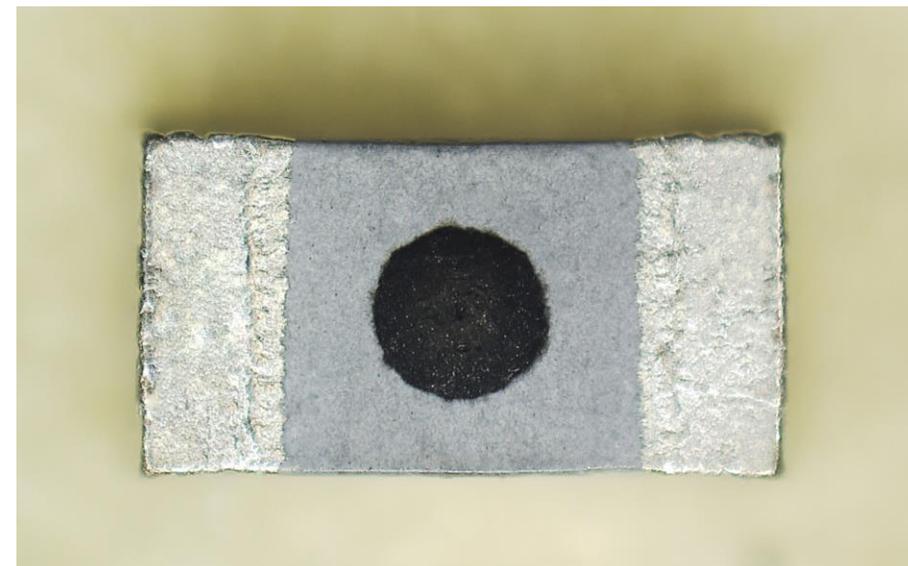
〈主な用途〉

- ・HV、PHV、EV車に搭載される電池監視用ユニットの回路保護

〈特徴〉

- ・当社独自の構造による速断型チップヒューズ
- ・当社独自の製法により小型1608サイズで定格電圧DC75Vを実現（従来比2.5倍）
- ・溶断時に発煙・発火しない

〈外観〉

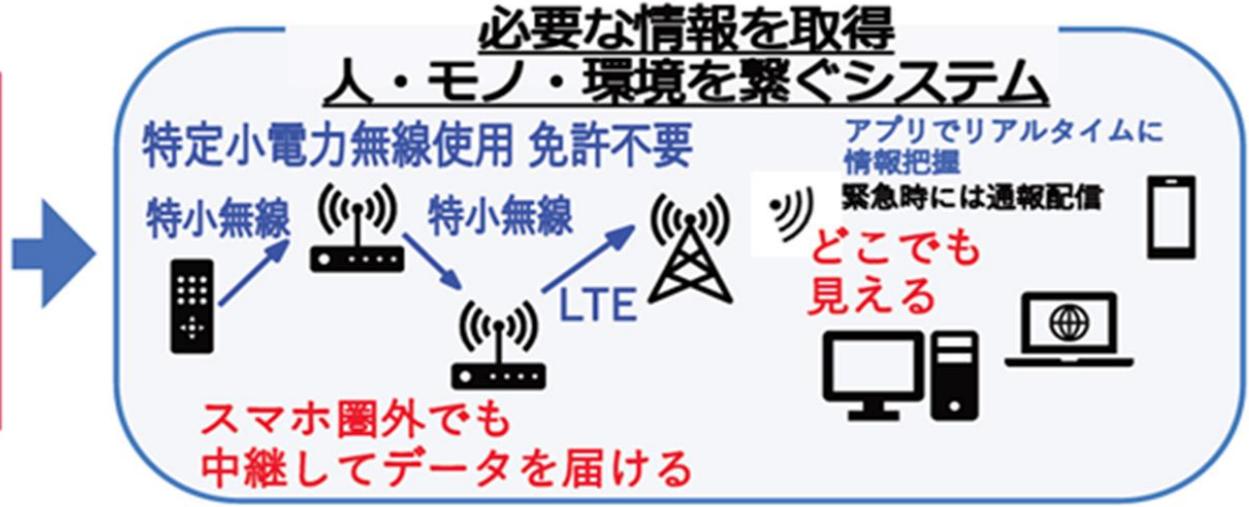


マーケティング強化と事業化推進：社会の安心、安全確保に貢献

- ▶ 社会課題解決に寄与する I o T サービス、センシングソリューション製品の開発を加速
- ▶ 2023年7月から産業車両の位置や稼働状況などを検知するサブスク型 I o T サービスを開始

HOKURIKUのIoT

人	位置情報	SOS
	バイタル	転倒
モノ	位置情報	稼働情報
	危険運転操作情報	
環境	水位	温湿度
	風量	ガス



【システム例】

産業車両向けシステム



- 〈主な機能〉
- ・移動情報
 - ・危険運転操作情報
 - ・緊急通報による通知監視
 - ・履歴情報（クラウドに蓄積）

工事現場向け見守りシステム



- 〈主な機能〉
- ・転倒検知
 - ・危険エリア侵入検知
 - ・長時間滞留
 - ・高所作業中

北陸電気工業株式会社



本資料に記載されている業績見通しにつきましては、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて当社が作成したものでありますが、経済環境や変動の激しいエレクトロニクス市場動向の変化など、様々な要因により実際の業績とは大きく異なる結果となる可能性があります。そのため、本資料の業績見通しや目標数値等に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。なお、本資料の利用の結果生じ得るいかなる損失に関しても、当社は一切責任を負いません。